

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/16

EU財務相会合、ギリシャに関する決定は先送りへ

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	原油価格次第では・・・ 予想レンジ: 112.00～116.50 円	2-3
ユーロ/ドル	➡	ギリシャに関する審査報告 予想レンジ: 1.3950～1.4400 ドル	4-5
ポンド/円	➡	英国の利上げ時期を巡る思惑に注目 予想レンジ: 128.70～133.50 円	6-7
ポンド/ドル	➡	商品・株・ユーロ圏債務問題が波乱要因 予想レンジ: 1.6050～1.6430 ドル	8-9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 5/9～13までの主な推移



<p>5/9 Monday</p>	<p>格付け会社S&Pが、ギリシャの債務再編リスクが高まっている事を理由に同国の格付けを「BBマイナス」から「B」に2段階引き下げると発表した事を受けてユーロが急落した。格下げを受けて欧州株が下げ幅を拡大した事もあってユーロ/円は1円以上値を下げて115.01円まで軟化した。(①)</p>
<p>5/10 Tuesday</p>	<p>一部通信社が「ギリシャに対する新たな支援策が6月にも明らかになる」と報じた事を受けてユーロが急反発。ギリシャ財務相高官がこの報道を否定すると一時弱含む場面もあったが、その後は一時下落していた原油価格が上昇に転じた事や、欧米株が軒並み上昇した事を背景に再びユーロ買いが優勢となり、ユーロ/円は116.51円まで上昇した。(②)</p>
<p>5/11 Wednesday</p>	<p>格付け会社S&Pがポルトガルの格下げの可能性を示唆した事を受けてユーロ売りが強まった。また、在庫の増加を嫌気してNY原油先物価格が100ドルを割り込んで大幅安となり、NYダウ平均株価も一時180ドルを超える下落となった。株安・原油安を背景にリスク回避ムードが高まると、ユーロ/円は114.56円まで下落した。(③)</p>
<p>5/13 Friday</p>	<p>独第1四半期国内総生産(GDP)が前期比+1.5%と予想(+0.9%)を上回る伸びを示した事や、欧州株が高く始まった事、WTI原油先物価格が100ドル台を回復した事などを背景にユーロが買い戻される場面もあったが、その後、NYダウ平均株価が100ドル超の下落となり、WTI原油先物価格も97ドル台に下落した事を背景にリスク回避の動きが強まるとユーロ/円は113.50円の安値を付けた。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は113.50円～116.87円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約1.7%の下落（ユーロ安・円高）となり、ここ2週間の下落率は5.2%に及んでいる。ギリシャをめぐる債務再編の思惑に加え、原油など資源価格の下落がユーロ圏のインフレ圧力を弱め、利上げ期待が後退している事が、ユーロ大幅下落の背景であろう。今週は16日に欧州連合（EU）財務相会合、17日にはユーロ圏財務相理事会が予定されている。ギリシャに対する追加支援も議題の一つとなる可能性が高いが、ユーロ圏の盟主ドイツは、ギリシャの自主的な債務再編を促しているとの報道もあり、追加支援に対する意見の集約は困難な様子だ。今回の会合で、こうした見方を覆す具体的な支援策が決まれば、ユーロが大幅に上昇することになると考えられるが、その可能性は低いと言わざるを得ず、結論は6月に先送りとなる公算が高い。原油など資源価格が再び上昇に転じ、欧州中銀（ECB）による追加利上げ観測が高まらない限り、ユーロ/円の上値は重くなりそうだ。（神田）

（予想レンジ：112.00～116.50円）

テクニカル分析



●ユーロ/円 5/13週足引値：114.01円（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）ユーロ/円は、88.93円（2000/10安値）から169.95円（2008/07高値）へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円（8/24）を安値、115.97円（3/04）を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇して以降は揉み合いながら下落中である。先週のユーロ/円は117円台から113.50円へと下落が続いた。取引値は200日線（112.91円、5/13）よりも上値にあるものの、20日線（118.12円、5/13）を大きく下回り、60日線（116.73円、5/13）を割り込んで下落している。ボリンジャーバンドは5/13現在、上限：122.60円～下限：113.64円で、バンド上限が横ばいの中、下限は取引値が押し下げて下落しバンド幅は拡大している。ユーロ/円は下落の中の動きだが、200日線（112.91円）が近く、下落スピードの速さをそろそろ警戒しても良いところ。113円台からは一回はリバウンドも視野に入れた戦略を考えたい。

上値ポイントは、①116.47円（4/18安値）、②116.87円（5/11高値）、③118.12円（20日線、5/13段階）、下値ポイントは①113.50円（5/13安値）、②112.92円（200日線、5/13段階）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 5/9~13までの主な推移



5/9 Monday	格付け会社S&Pが、ギリシャの債務再編リスクが高まっている事を理由に同国の格付けを「BBマイナス」から「B」に2段階引き下げると発表。これを事を受けてユーロが急落した。格下げを受けて欧州株が下げ幅を拡大した事もあってユーロ/ドルは150ポイント以上値を下げて1.4253ドルまで軟化した。(①)
5/10 Tuesday	一部通信社が「ギリシャに対する新たな支援策が6月にも明らかになる」と報じた事を受けてユーロが急反発。ギリシャ財務相高官がこの報道を否定すると一時弱含む場面もあったが、その後は一時下落していた原油価格が上昇に転じた事や、欧米株が軒並み上昇した事を背景に再びユーロ買いが優勢となり、ユーロ/ドルは1.4410ドルまで上昇した。(②)
5/11 Wednesday	格付け会社S&Pがポルトガルの格下げの可能性を示唆した事を受けてユーロ売りが強まった。また、在庫の増加を嫌気してNY原油先物価格が100ドルを割り込んで大幅安となり、NYダウ平均株価も一時180ドルを超える下落となった。株安・原油安を背景にリスク回避ムードが高まると、ユーロ/ドルは1.4170ドルまで下落した。(③)
5/13 Friday	独第1四半期国内総生産(GDP)が前期比+1.5%と予想(+0.9%)を上回る伸びを示した事や、欧州株が高く始まった事、WTI原油先物価格が100ドル台を回復した事などを背景にユーロ/ドルは1.4338ドルまで上昇する場面もあったが、その後、NYダウ平均株価が100ドル超の下落となり、WTI原油先物価格も97ドル台に下落した事を背景にリスク回避の動きが強まると、ユーロ/ドルは1.4065ドルの安値を付けた。(④)

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4065～1.4441ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.9%の下落（ユーロ高・ドル安）となった。ギリシャをめぐる債務再編の思惑や、原油などの資源価格の軟調推移を背景にここ2週間で約4.9%という大幅下落となっている。今週は16日に欧州連合（EU）財務相会合、17日にはユーロ圏財務相理事会が予定されているが、今回の会合で具体策がまとまる可能性は極めて低いだろう。EUと国際通貨基金（IMF）はギリシャの財政構造改革と債務の持続可能性に関する審査を行っており、この審査報告を待ってから、追加支援などギリシャに関する重要な決定が下される模様だ。ただ、この審査報告は週内にまとまる可能性もあり、ギリシャに対する追加支援が濃厚となればユーロが買い戻される可能性もある。その他、不安定な値動きが続く商品価格にも注意が必要であろう。特に原油価格の動向は調整が長引けばインフレに敏感な欧州中銀（ECB）による利上げ観測を後退させる可能性が高く、反対に上昇に転じるようだと、再び利上げ観測が浮上する可能性もある。（神田）

（予想レンジ：1.3950～1.4400ドル）

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 5/13週足引値：1.4097（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234（2000/10安値）と1.6037（2008/07高値）の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940⇒5/13安値1.4065となっている。現状の取引値は、200日線（1.3634、5/13）よりも上値に位置するが、60日線（1.4222、5/13）や20日線（1.4522、5/13）よりも下値に位置する。ボリンジャーバンドは5/13現在、上限：1.5001～下限：1.4043であり、ボリンジャーバンドの上限は上昇、下限は下落となっている。ユーロは5/04の高値1.4940から下落相場に転換している。2月の1.35近辺から積み上げたユーロ・ロングの解消で下落しているが、7取引日で875pipsも動いており、スピードが速い。まだ上昇を続ける90日線（1.3991、5/13時点）を1回で割り込むとは思えず、1.40-1.4050レベルの1.40の大台近くでは一度はリバウンドの可能性を考え、逆にここを割り込み始めるようだと下落再開と見る。上値ポイントは①1.4222（60日線、5/13段階）、②1.4440（5/09高値）。下値ポイントは①1.3991（90日線、5/13段階）、②1.3907（1.2873-1.4940、今年の安値-高値の50%）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 5/9～13の主な推移



5/9 Monday	格付け会社S & Pがギリシャの格付けを「BBマイナス」から「B」へ2段階引き下げると発表し、ユーロ/円が急落すると、ポンド/円も連れて131.23円まで下落した(①)。
5/11 Wednesday	欧州勢参入とともにジリジリとポンドは上昇。18時30分に発表されたイングランド銀行(BOE)の四半期インフレレポートでインフレ見通しが2月報告から上方修正されていた上、キングBOE総裁がこれまでよりも強いインフレ警戒を示したことから、ポンドは大幅に上昇し、134.01円の高値をつけた(②)。しかし、その後に原油価格やNYダウ平均が大幅に下落すると、リスク回避の動きが広がり、ポンド/円は反落。欧州市場での上げ幅を完全に消した。
5/12 Thursday	欧州市場序盤から時間外の原油先物やNYダウ平均先物が下落すると、ポンド/円は下落。さらに17時30分に発表された英3月鉱工業生産が前月比+0.3%と予想(+0.8%)を大きく下回る結果になったこともポンド売り要因となり、ポンド/円は米国市場で131.20円まで値を下げた(③)。
5/13 Friday	東京市場中は日経平均株価の下げ幅が拡大したことや、イスラム武装勢力「パキスタン・タリバン運動」が自爆テロを行ったことを受けてリスク回避の動きが強まり、ポンドは下落。欧州市場に入るとドイツとフランスの第1四半期国内総生産(GDP)の好結果を受けてユーロ/円が上昇したことを背景にポンド/円は一旦下げ渋る様子もみられたが、米国市場に入り、NYダウ平均や商品価格が下落したことを背景にクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)は全般的に売られ、ポンド/円は130.28円の安値をつけた(④)。

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週のポンド/円市場で最も注目されるのは、17日発表の英4月消費者物価指数と18日発表のイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録の2つだろう。

先週に発表されたインフレレポートによって、市場の早期利上げ期待は次の関心事である「利上げ時期」に向かっており、上記2つの材料からそれを読み解こうとする動きになっていくと考えられる。消費者物価指数の予想以上の上昇や、MPC議事録において金融政策決定時の投票バランスがタカ派側に変化しているようならば、今後2~3カ月以内の利上げ観測が広がり、ポンドが大きく買われると見られる。

ただ、足元のポンド/円相場は乱高下する商品市場や株式市場の動向に連れる場面が多い。引き続き商品価格や株価の急激な基調の変化には注意したい。また、足元のポンド/円はギリシャの債務不安を背景とするユーロ/円の不安定な動きに連れて上値を抑えられる様子も見受けられる。欧州重債務国の財政再建に関する報道は波乱要因として押さえておきたい。(ジェルベズ) (予想レンジ:128.70~133.50円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 5/13週足引値:130.84円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながら下落推移している。現状では、20日線(133.74円、5/13)、60日線(133.59円、5/13)、200日線(131.86円、5/13)のいずれをも下回る推移となっている。ボリンジャーバンドは5/13現在、上限:137.19円~下限:130.30円であり、バンド上限、下限ともに下落推移で、取引値がバンド下限を押し下げており、下落相場が確認できるところ。直近では上値が重く推移している。60日線、20日線が上限、129~130円が下限のレンジで上下する相場と考えたい。130円台、129円台を突っ込んで売ると手痛い目に遭いそうなので、そこはガマンしたいところ。上値ポイントは①133.59円(60日線、5/13段階)、②133.74円(20日線、5/13段階)であり、下値ポイントは①130.20円(3/25安値)、②130円、③129.48円(122.98円⇒140円の61.8%戻し)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 5/9~13の主な推移



5/9 Monday	格付け会社S&Pがギリシャの格付けを「BBマイナス」から「B」へ2段階引き下げると発表し、ユーロ/ドルが急落すると、ポンド/ドルも連れて1.6268ドルまで下落した(①)。しかし、小幅安で始まったNYダウ平均が上昇に転じ、原油価格も上昇すると、ポンド/ドルは反発し、1.64ドル前後まで値を戻した。
5/11 Wednesday	欧州勢参入とともにポンドはジリジリと上昇。18時30分に発表されたイングランド銀行(BOE)の四半期インフレレポートでインフレ見通しが2月報告から上方修正されていた上、キングBOE総裁がこれまでよりも強いインフレ警戒を示したことから、ポンドは大幅に上昇し、1.6515ドルの高値をつけた(②)。しかし、その後に原油やNYダウ平均が大幅に下落すると、リスク回避の動きが広がり、ポンド/ドルは反落。欧州市場での上げ幅を完全に消し、1.6320ドルまで値を下げた。
5/12 Thursday	欧州市場序盤から時間外の原油先物やNYダウ平均先物が下落すると、ポンド/ドルも下落。さらに17時30分に発表された英3月鉱工業生産が前月比+0.3%と予想(+0.8%)を大きく下回る結果になったこともポンド売り要因となり、ポンド/ドルは1.6233ドルまで値を下げた(③)。
5/13 Friday	東京市場から欧州市場にかけては方向感に乏しい展開。欧州市場序盤にユーロ/ドルの上昇に連れてポンド/ドルも上昇する場面も見られたが、1.63ドル台では上値を抑えられた。その後、米国市場に入り、NYダウ平均や商品価格が大きく下落したことを背景にリスク回避の動きが強まると、ポンド/ドルは1.6145ドルの安値をつけた(④)。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週の英米は経済イベントが多い。16日から19日までにかけては毎日のように主要な経済指標の発表が予定されており、ポンド/ドル相場は欧州市場中は英国の指標などの結果を受けたポンド主導の動き、米国市場では米経済指標の結果を受けたドル主導の動きになるものと考えられる。

ポンド市場については、利上げ時期を探るムードが強まってきていることから、17日発表の英4月消費者物価指数や18日発表のイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(BOE)議事録の金融政策決定時の投票バランスには特に注目したい。

また、足元のポンド/ドル相場は乱高下する商品市場や株式市場の動向に連れる場面が多い。引き続き商品価格や株価の値動きには注目したいところだ。さらに、ユーロ圏の債務問題に絡むユーロ/ドルの急激な変動も、ポンド/ドル相場の波乱要因になろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6050~1.6430ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 5/13週足引値:1.6182(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

先週4/28に直近高値1.6744を見て後、5/13には1.6145まで下落した。

取引値は、200日線1.5918(5/13)を上回っているが、60日線1.6277(5/13)や20日線1.6443(5/13)を下回って来ている。また、ボリンジャーバンドは5/13現在、上限:1.6725~下限:1.6161であり、バンド幅の上限は横這い、下限は下向きになってきている。下落基調ではあるが、ここ先、1.61割れに向けて売り込むと行き過ぎ感も漂う。1.60~1.65のレンジの中で考えたいところ。目先の上値ポイントは①1.6443(20日線、5/13段階)、②1.6515(5/11高値)、であり、下値ポイントは、①1.6161(ボリンジャーバンド下限、5/13段階)、②1.6145(5/13安値)、③1.60の大台、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/16~19)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/16 (月)	08:50		(日) 3月機械受注 [前月比]	-2.3%	-10.2%
			(日) 3月機械受注 [前年比]	+7.6%	-8.8%
	18:00		(ユーロ圏) 4月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.8%	--
	18:00		(ユーロ圏) 3月貿易収支	-15億EUR	--
	21:30	○	(米) 5月ニューヨーク連銀製造業景気指数	21.70	20.00
	22:00	○	(米) 3月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+269億USD	--
		○	(米) 3月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+977億USD	--
23:00		(米) 5月NAHB住宅市場指数	16	17	
5/17 (火)	10:30	○	(豪) RBA議事録	--	--
	17:00		(南ア) 4月消費者物価指数 [前年比]	+4.1%	+4.4%
		◎	(英) 4月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.7%
	17:30	◎	(英) 4月消費者物価指数 [前年比]	+4.0%	+4.1%
			(英) 4月小売物価指数 [前月比]	+0.5%	+1.0%
	18:00	◎	(独) 5月ZEW景況感調査	7.6	5
	18:00		(ユーロ圏) 5月ZEW景況感調査	19.7	--
	20:00		(南ア) 3月実質小売売上高 [前年比]	+5.6%	+6.3%
	21:30	◎	(米) 4月住宅着工件数	54.9万件	57.0万件
	21:30	○	(米) 4月建設許可件数	59.4万件	59.0万件
	22:15	○	(米) 4月鉱工業生産 [前月比]	+0.8%	+0.4%
			(米) 4月設備稼働率	77.4%	77.6%
5/18 (水)	07:45	○	(NZ) 第1四半期生産者物価 [前期比]	+0.2%	--
	17:30	◎	(英) BOE議事録		
		◎	(英) 4月失業率	4.5%	4.5%
	17:30	◎	(英) 4月失業保険申請件数	+0.07万件	+0.1万件
	18:00		(ユーロ圏) 3月建設支出 [前月比]	-0.7%	--
	21:30		(加) 4月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	--
	21:30		(加) 3月卸売売上高 [前月比]	-0.6%	+1.5%
	27:00		(米) FOMC議事録(4月27日分)	--	--
5/19 (木)	08:50	○	(日) 第1四半期GDP・一次速報 [前期比]	-0.3%	-0.5%
		○	(日) 第1四半期GDP・一次速報 [前期比年率]	-1.3%	-2.0%
	13:30		(日) 3月鉱工業生産・確報 [前月比]	-15.30%	--
			(日) 3月鉱工業生産・確報 [前年比]	-12.90%	--
	17:30	○	(英) 4月小売売上高指数 [前月比]	+0.2%	--
		○	(英) 4月小売売上高指数 [前年比]	+0.9%	--
	21:30	◎	(米) 5/14までの週の新規失業保険申請件数	43.4万件	--
	21:30	○	(米) 4月中古住宅販売件数	510万件	520万件
			(米) 4月中古住宅販売件数 [前月比]	+3.7%	+2.0%
21:30	◎	(米) 5月フィラデルフィア連銀景況指数	18.5	20.5	
21:30		(米) 4月景気先行指数 [前月比]	+0.4%	+0.1%	

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/20)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/20	未定	○	(日) 日銀金融政策決定会合	0.1%	--
(金)	15:00		(独) 4月生産者物価指数 [前年比]	+6.2%	+6.0%
	17:00		(ユーロ圏) 3月経常収支	-72億EUR	--
	20:00	○	(加) 4月消費者物価指数 [前月比]	+1.1%	+0.5%
		○	(加) 4月消費者物価指数 [前年比]	+3.3%	+3.4%
	21:30	○	(加) 3月小売売上高 [前月比]	+0.4%	+0.9%
	23:00		(ユーロ圏) 5月消費者信頼感・速報	-11.6	--

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com